

再生

山又



人

金の苦勞によつて人間は鍛えられる。
金の苦勞を知らない人は、その人柄がいかに良くても、どこか
喰い足りぬところがある。人の苦しみの察しがつかぬからである。

森信三先生一語千鈞より



「二〇二五年になったら、日本は再び立ち上がる兆しをみせるであろう。二〇五〇年になったら、列国は日本の底力を認めざるを得なくなるだろう」

父親人間学入門

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第一二回 十月四日
場所：仁風庵

―父として・人間として―

二十一 廿一世紀への日本的家族主義

期待される人間像

さて、教育の現状にかんがみて、日本民族の将来が深憂にたえず、よって前章おいてはわたくしなりに教育再建の方途について、その骨子を述べてみたしであります。(詳しくはそれぞれについて詳説してある「生を教育に求めて」ならびに「家庭教育二十一カ条」・「立腰教育入門」などをお読み頂きたいと思います)

ところで「ではわたくしの期待する男性的人間像とはどういうものか」と問われるならわたくしは、

第一 自己の本分を忠実に果し、義務と責任を重んずる人

第二 行動的叡智をもって主体的に仕事にとりくむ人

第三 人間的情味があつく、至純にして清朗な人

とても申せまじうか。これらの事は、これまで述べて来た中におのずから表明せられているわけで、今さら申すまでもないことでしょうが、しかしこれらの条件は、人間の内面的立場から申したことで、いま視点をかえて外側の立場から申してみると、

第一 自分一人で判断のできる人間に

第二 人々と協調のできる人間に

第三 真摯にして実践的な人間に

第四 つねに国家社会と民族の運命について考える人間に

第五 さらに世界人類の将来についても思念する人間に

おでも申せようかと思えます。とにかくに日々脚下の現実に対してそれぞれの立場から真摯に対処しつつ、遠く民族の将来にも念いを馳せるというのが、今後の期待される人間像であらねばならぬと思うのであります。いつも申すのですが、われわれはミクロ(微視)とマクロ(巨大)ともいふべき二つの対極的な視点を、つねに切り結ばせつつ生きねばならぬのであります。それというのもわたくしたちは、今日では実に複雑多岐な社会組織のさ中に生き、しかも激動激変の中に生きているわけですが、それだ

対極を切りむすばせる

けに又多と一、動と静という両極を見失うことなく生きねばならぬと思えます。これわたくしのいう「対極的思考法」と称するものであります。

(実践人の家の会員であればなたでも参加できます。
(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

この対極的思考法とは、常に異質的な両極を切りむすばせる方法で、これこそ激動してやまない現実把握の方法論であり、これこそ真の「生」の論理ではないかと思うのであります。世界における日本の立場という面から考えてみても、今後の日本民族のあり方は、この一語に象徴されているかと思われます。すなわち東西陣営の二大勢力の中に立ちつつ、他面には南北問題をはらむ発展途上国との間にあって、日本の今後のあり方は、実に微妙にしかつかつ慎重であらねばならぬが故であります。卑近な一例をあげれば、子どもの小遣い一つを決める場合にも、われわれはこの対極的思考法を適用しているともいえまじう。即ち智と情の両面から、その他いろいろと勘案した上で額と時期との決定をするといつてよいでしょうが、そこにはこの対極的思考法が、実に微妙に働いているともいえまじう。このように、一見相反する両極の切りむすび、噛みあった点が、現実的解決のあるべき一点となるといえまじう。しかも現実には決して固定したものではなくて常に流動的である以上、そうした切り結ぶ一点は、時々刻々に動きつつあるわけであります。

このことは、道徳面からも申せることであつて、戦後はタテの道徳はすべて封建制の遺物として、一切否定された感がして、民主主義という名のもとにヨコの道徳のみが強調された感じがしますが、流石に三十余年にわたる民族の経験により、今日何時までもそれではいかぬという兆候が一般にも認識されて来たのではないのでしょうか。これをもって直ちに封建制の復活などというのは、観念的論理によるものであります。もともと東洋につたわるタテの道徳、すなわち「孝」を中心とした徳目は、あらゆる徳目の中でも最根本的な宇宙的真理の一面だからでありまじう。それ故、子の真理を無視した単に形成的な民主主義一辺倒では、いのちの現実を把握し得られないからであります。

孝の哲理

古来東洋にわたる「孝」の哲理については、いずれ講をあらためて詳説したいと思いますが、今その概略を申し上げますと、結局先ほども申したように、孝の徳目は、ひとりもろもろの徳目中の一つではなく、あらゆる徳目を支える最基本的な徳目なのであります。すなわち最根本的には、いのちの開眼につながる宇宙的真理ともいえるからであります。この事に関して、わが師西晋一郎先生を通して、徳川中期に現れた中江藤樹先生の思想・学問に学ぶところであります。すなわち、日本における陽明学の祖といわれる中江藤樹先生の学問・思想の根幹をなすものは、じつにこの「孝」の哲理に他ならないのであります。

思えば「孝」とは、おのがいのちの根源を思う人間としての至情であります。われわれには、生のスタートにおいて見のがすことの出来ない絶対的事実があるわけで、それは「われわれ人間は、自分の意志と力によつて、この地上に生まれて来たものは一人もいない」という絶対的な事実なのであります。随つてこの絶対的事実の認識こそ最重要であり、これこそわれわれ人間の認識の中で、おそらくは最高最深の認識といつてよからうと思うのであります。同時にもっと卒直な言い方をいたしますと「われわれ人間は自ら親を選んでこの世に生まれ出たものは一人もない」ということであります。このように申しますと、「そんなことは判りきつたことではないか」と一笑に付する人もあらうかと思いますが、実はこれは大へん大事なことでありまして、「孝の哲理」における最根本的な認識なのであります。これは己れの生のみならず、親自身の生もまた、祖父母の血をうけてこの世に出現せしめられたのでありまして、こうして遡つて参りますと実に無量多の血をうけて、現在のこのわたくしの「生」があると申すわけでありまして。かつてわたくしのよみました歌に、

たらちねの親のみのちわが内に生きますと思ふ畏しきろかも
という一首がありますが、つまり親とは無量の祖先の代表者であり、祖先からの血の継承の最先端の一点なわけでありまして。ですから親を軽視することは、無量多の祖先を軽んずることであり、否、端的には自己そのもののいのちを軽視することでありまして、いのちの根本法則に反するわけであります。それゆえ親に対する敬愛の情は、おのが生の尊厳にもつながることを、わたくしどもは今いちど省りみるべきであらうと思われまふ。もっともこうは申しても、これは戦前の孝道そのままの復活というよりも、むしろわれわれ日本民族のもつ伝統的美徳への反省であります。

即ちこの孝徳こそは、われわれ日本人のもつ美德の最端的な源泉であることへの再認識が、今こそ必要ではなからうかと思うのであります。

新日本家族主義

かえりみまして、東洋の一隅に位するわれわれ日本民族が、敗戦という一大痛打を受けながらも、三十余年後の現在、今や経済大国として世界にその名を列するにいたり得たその秘密は、一たい奈辺にあるかと、欧米各国の識者たちが検討を開始したところ、その根本要因となるものは、企業における一大家族主義にあるという結論に達したようであります。しかるにわれわれの一部の風潮といたしまして、形式的な民主主義や個人主義の影響をうけて、親との同居を忌避する傾向が見られるのは、真に遺憾にたえない憂うべき現象と思います。また子ども一人一部屋という傾向にはどうも賛同しかねるのであります。もともと欧米の個人主義は、厳しい義務と責任という自律心によつて裏づけられたものであつて、勝手気儘な放縦とは凡そ縁遠いものなのです。これは欧米における家庭の躰けが予想以上に厳しいことを、長期滞在者は誰しも痛感報告している所であります。それは個人の尊厳と自立を重んずる原理にもとづき、自立即自律のルールを守らせることに厳格なのであります。

ところで家庭主義の原則は、何としても和と秩序を重んずる精神に則つたものであつて、心情的な絆を大切にする運命共同体的な考えに基づくものと言えますが、この東洋的心情は、先にも申したように、その根源は農耕民族に由来するものと思われてなりません。ただ家族主義の欠陥として、一部の心ある人々が指摘しているように、家族主義にみられる甘えの体質と構造でありまして、ここに西欧の眞の個人主義における自立即自律に学ぶべき点が大いに考えられるわけでありまして。とは申しても、日本古来の良風たる家族主義を、一挙に葬り去ることには到底賛しないことは申すまでもないことです。ここにわたくしが「新日本家族主義」を提唱するゆえんのものがあるわけです。すなわち、欧米の個人主義と日本古来の家族主義の折衷が、今後のあるべき日本の新家族主義ではあるまいかと思われまふ。

折衷という言葉がもし適当でないならば家族主義の地盤にあつて、おのおのの自立を尊重するあり方が望ましいわけでありまして。具体的には、家屋の事情が許されるなれば祖父母との同居がのぞましいわけで、かえつてこの方が子供の教育上、マイナス面よりプラス面の方が多いのではなからうかと思うのです。

それというのも祖父母の存在が、家庭教育に果す役割りの意外に大きいことを、今日改めて注目する必要があると思います。とりわけ思慮ふかい祖父母に対する日常生活における両親の敬愛の態度が、如何に心情の啓発に自然に感化をもたらすかを、今こそ改めて再認識したいものである。こうした家族主義の良風を温存しつつ、同一屋敷内に母屋と離れて、一家を構え得たらそれこそ理想的でしょうが、そう行かない場合には、階上と階下に別居するのが望ましいと思うのであります。これも諸般の事情があつて許されぬ場合もありましょうが、根本的なあるべき基本的態度だけは、しっかりと確立したいものであります。

あるべき父親像

いよいよ最後のコトバを述べる段階にたちいましたが、総まとめの意味であるべき父親像について箇条書きにのべてみたいと思います。これは最近送つてこられた誌友の村田克章氏の個人誌「あすなる」に大いに触発されたもので、多少修正をほどこして、ここに引用させて頂いてこの講話の結びとしたいと思います。

一、父親自身が確固たる人生観をもち、柔軟にして強じんな信念の持主でなければならぬ。

人生の先達として一家の大黒柱として、つねに叡智と識見を磨くことを怠らないよう。

一、父親はまず一事を通してわが子に忍耐力を育てるしつけをすべきである。

これは日常の起居動作を初め共同作業やスポーツや学習等の如何をとわない。

一、父親は、平生は泰然として、あまり叱言を言うべきでない。

古来すぐれた父親は、わが子を一生に三度だけ叱るというが、これ位の構えが必要。

一、父親は、イザという時、凜呼たる決断と俊敏な行動を示す者でなければならぬ。

一、父親自身が自らの「生活規律」をもち、これを厳守する者でなければならぬ。

――以上。

●次号から本書の中で、森信三先生が推薦されていたグスタフ・フオス著「日本の父へ」を掲載します。

鍵山秀三郎 掃除が起こした「奇跡の力」

連載 3 4 回

著者：鍵山 秀三郎 2008.12

第二章 掃除が会社を変える

社員の心の質を高める掃除

社内も大きく変わりました。整理・整頓・清潔ということの意味が浸透し、何がどこにあるのかが誰にでもわかるようになったのです。あちこちにちらばっていたような備品類は、何が入るのかがラベリングされた引き出しに整理され、いつでも書類が雑然と積み重ねられていた社員のデスクの上も、今は退社時には紙一枚残さずに片づけ、最後に椅子を上げて帰る、という習慣が定着しました。

また、私は掃除道具をきちんと揃えることもとても大切なことだと考えています。

いいかげんな道具では、いいかげんな掃除しかできません。少々値が張っても、用途に合った掃除道具を、きちんと手入れしながら使いわけることが、もつと効率のよい掃除となります。

そして掃除道具は、整理・整頓されてこそ力を発揮します。いつでも誰でも使いやすくしておくことで、毎日掃除が続けられるのです。わが社では、掃除道具置き場は誰でもひと目でわかる置き方を心がけています。たとえば同じ掃除道具には、同じ箇所に同じ色のカッティングシートを張り、それを戻す場所にも同じ色のカッティングシートを張っておきます。

こうすれば、戻すときにもバラバラになりません。また、道具をつり下げる紐も、すべて同じメーカーの同じ太さのロープを使用し、同じ長さで下げるようにしています。こうすることで見た目が美しく揃い、みんなが自然にきれいに戻すようになります。もちろん道具は使うたびに洗って片づけます。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 383 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



第383回 博多駅早朝清掃 32年目

10月8日(月曜日) 45名参加



博多駅早朝清掃 ～日本一の駅から、日本一の心を～

第383回目を迎えた博多駅早朝清掃は、今回も45名の参加者とともに、清々しい朝の空気の中で実施出来ました。平成5年12月8日にスタートして以来、なんと**31年11か月**、**一度も休むことなく毎月継続**してきた活動です。来月で満32年、延べ参加人数は**29,262名**にのぼります。

この活動は、教育哲学者・森信三先生の言葉「ゴミはその街の文化の象徴ですからね」に衝撃を受けた帆足先生の呼びかけから始まりました。九州の玄関口「博多駅」を舞台に、「博多駅を日本一の駅にしよう！その想いを新幹線に乗せて全国へ広めよう！」という熱い志をもって、多くの道友が集い続けています。今回は、なんと遠く千葉県からも仲間が参加。世代や地域を越えて、**心ある人々がつながる場**として、ますます広がりや深まりを見せています。

私たちの合言葉は「**555 (ゴー・ゴー・ゴー)**」。100年続く活動を目指して、これからも“元気”と“志”を胸に、地域に、そして日本に元気を届けていきます。 世話人：富吉袈裟右衛門 拝



精華の旗は生徒たちで！



千葉からサプライズ参加の道友



博多の仲良しギャルたち！！



福岡掃除に学ぶ会の次世代代表のメンバー



2025.10. 11～12 於：山形県出羽三山お掃除



出羽三山・鏡池の清掃を通して学んだこと

——山形掃除に学ぶ会 参加体験記——

このたび、山形掃除に学ぶ会の一員として、出羽三山神社の鏡池清掃に参加させていただきました。前夜から激しい雨と風が吹き荒れ、果たして掃除ができるのかと心配される中での出発となりました。夜明け前の恒例であるひとり掃除も、階段が滑り危険との理由から、道友の皆さんより「絶対に行ってはダメ」と強く止められました。しかしながら、私の心にはどうしても引っかかる思いがありました。

「例外を作らない」「一度決めたことは最後までやり抜く」——。

それは教育者・森信三先生の教えであり、その精神を一生貫かれた鍵山秀三郎相談役、そして阿部豊先達のお姿を通じて学ばせていただいた生き方でもあります。その教えに背くことはできないと心を定め、五重塔へと続く2400段の石段を、ゆっくりと、ひと段ひと段踏みしめながら下らせていただきました。

山形の山々は、秋も深まり熊の出没情報もある時期でした。同行してくださった方が「今、ザザッと音がした」と耳を澄ます場面もあり、自然の厳しさと隣り合わせの中での道のりでした。

それでも、無事に五重塔へお参りを果たし、静寂の中で手を合わせることができた瞬間、胸の奥から感謝の念が込み上げてまいりました。出羽三山は、羽黒山・月山・湯殿山の三山から成り、古くから「生・死・再生」の信仰の山として知られています。羽黒山は「現世の幸せ」、月山は「死後の浄土」、湯殿山は「再生・新生」を象徴し、古来より修験者たちはこの三山を巡りながら、生と死を超えた悟りの道を歩んできました。その中心にある鏡池は、まさに心を映す場所ともいわれ、訪れる人の心を静かに映し出してくれます。清掃当日、雨はやまず、「決死隊」と呼ばれての作業開始となりました。

しかし不思議なことに、途中から雨脚が弱まり、小康状態となりました。まるで山の神々が私たちの行いを見守ってくださっているかのようなものでした。泥にまみれながらも、皆で力を合わせ、鏡池を清め終えたとき、そこに映る空が少し明るく見えたのが印象的でした。

今回の体験を通じて、掃除とは単に汚れを落とす行為ではなく、「自らの心を磨く行」であることを改めて実感いたしました。雨の中、自然と向き合い、己の弱さと向き合いながら、最後までやり抜けたことは、私にとって二度と味わうことのない貴重な経験となりました。

この道を共に歩んでくださった仲間、山形掃除に学ぶ会のお世話くださった皆様、そして大自然と出羽三山の神々に、心から感謝申し上げます。

25.10.12 富吉袈裟右衛門 拝

2025.10.18 於：姫路を美しくする会／姫路駅清掃



姫路駅早朝清掃に参加して

10月11日、姫路駅の早朝清掃に参加させていただきました。姫路駅での清掃活動は、今回でちょうど10回目となります。この活動は、現役の中学校教師であるW先生が、博多駅での早朝清掃を参考に始めてくださったものです。主に学校の先生方が賛同して参加されており、先生方がお子さんを誘ってくださることで、多くの小学生や中学生も加わり、毎回とても賑やかで温かい雰囲気の中で行われています。普段の街頭清掃では、学校の先生方のご参加は珍しく、大変ありがたいことです。

この日の朝は、W先生の「今日はゴミの数を数えながら拾っていきます。今回は5,000個を目指して頑張りましょう！」という力強い号令でスタートしました。

活動中、「グレーチングの掃除を一ヶ所お願いします」との声があり、気になって現場へ行ってみると、なんと溜枳が砂でいっぱいに埋まっていました。先遣隊として作業にあたっていたK大御所が、まるで鍵山相談役や阿部先達を思わせる姿で、地面に腹ばいになりながら奮闘されていました。その熱心な姿に頭が下がる思いでした。

また、泥にまみれながらも黙々と作業を続けるK大御所の後ろ姿は、後に続く者の一人として大いに学びとなり、深く胸に刻まれるものでした。

約一時間ほどの作業で、土嚢袋4杯分の土が掻き出されました。そのほか、タバコの吸い殻や紙くずなども多く回収。最後にはスプレーで色を整え、まるで新品のように美しいグレーチングへと生まれ変わりました。

この日の成果は、ゴミの数が合計で**4,217個**。目標の5,000個にはあと一歩及ばず、少し残念ではありましたが、皆さんが一生懸命に取り組まれたおかげで、駅周辺は見違えるほどきれいになりました。今回も多くの方々のご協力のもと、心地よい達成感とともに清掃を終えることができました。W先生をはじめ、参加された皆さまに心より感謝申し上げます。また参加させていただきます。

2025.10.18 富吉袈裟右衛門 拝

2025.10.20 於：新大阪駅東口広場早朝掃除



新大阪駅東口清掃活動に参加して

奈良での「掃除に学ぶ会」の清掃活動に参加させていただいた翌日、博多へ戻る新幹線の時間までのひとときに、新大阪駅東口での清掃活動に参加させていただきました。この活動は、Y/K先生が30年以上にわたり、毎朝休むことなく続けてこられているものです。Y先生は、第45回福岡実践人研修会にも講師としてお招きしている先生であり、そのお姿から学ぶことの多い方です。

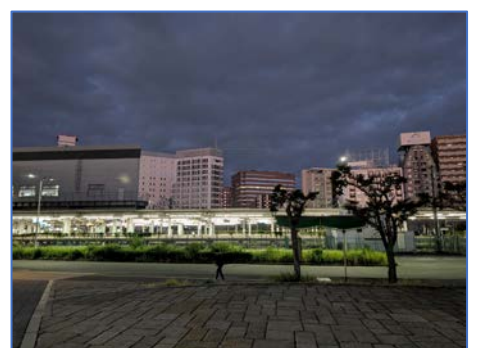
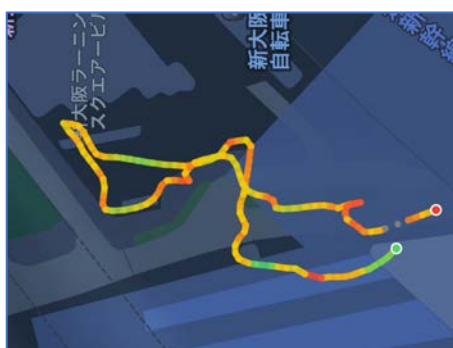
いつもご一緒に参加されたIさんは、「いつもこの掃除は緊張します」とおっしゃっていました。私も先生の後ろ姿を拝見しながら、その気持ちがよく分かるような気がいたしました。Y先生の後ろ姿には、長年の積み重ねから生まれる気品と美しさが同居しており、同じようにゴミを拾う動作一つにも、心のあり方や生き方がにじみ出ているように感じました。まさに「掃除を通じて人を磨く」という言葉を体現されているお姿でした。

約一時間の活動でしたが、心が満たされるような充実した時間となりました。清掃後は、先生が30年来通われているという喫茶店でモーニングをいただきました。開店前にもかかわらず、「どうぞお入りください」と温かく迎えてくださり、そのおもてなしの心にも感動いたしました。

短い時間ではありましたが、多くの学びと気づきをいただいた貴重なひとときでした。また出張の折には、ぜひ参加させていただきたいと思います。

2025.10.20 富吉袈裟右衛門 拝

2025.10.18 於：新大阪駅東口広場早朝掃除



新大阪駅東口／ひとりごみ拾い

10月18日、姫路駅へ向かう新幹線の始発は新大阪駅を午前6時ちょうどに出発します。その前のわずかな時間を活かし、いつもY/K先生が一人で清掃を続けておられる東口広場にて、ゴミ拾いをさせていただきました。ひとり掃除の醍醐味は、自分自身と向き合い、内なる勇気を育むことにあると感じます。そのことに気づかせてくださったのが、ほかでもないY/K先生の後ろ姿でした。先生が長年にわたり新大阪駅東口で続けてこられた清掃活動は、私にとっても心を整える大切な学びの場となっています。

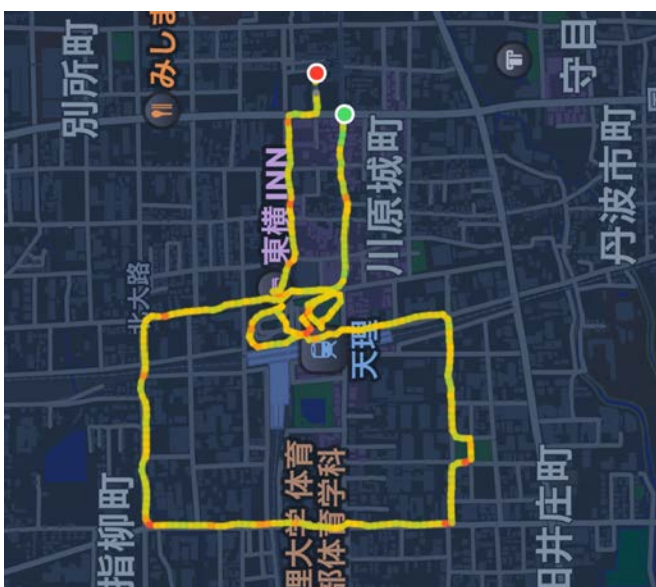
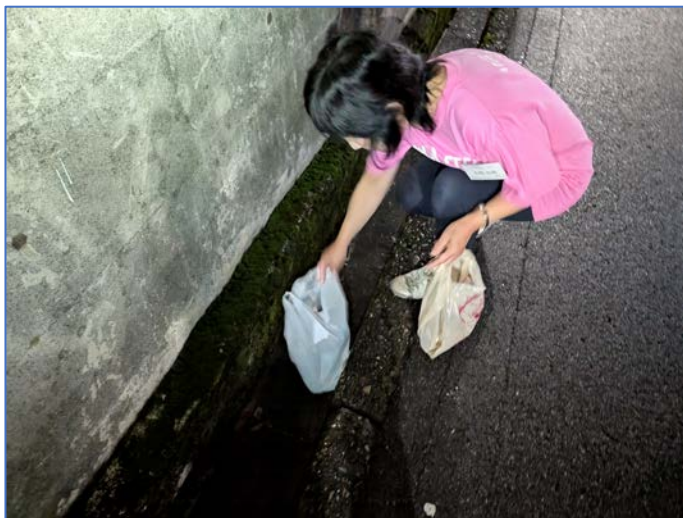
掃除は、普段見過ごしてしまうことに気づかせてくれます。そして、気づいたことを実際の行動へと移す勇気を与えてくれるのも、ひとり掃除の功德であると感じます。そんな思いを胸に、夜明け前の静かな広場でゴミを拾いながら、小さな幸せを感じるひとときを過ごしました。

富吉袈裟右衛門 拝

2025.10.19 於：奈良天理駅ひとりゴミ拾い



早朝3時33分の笑顔



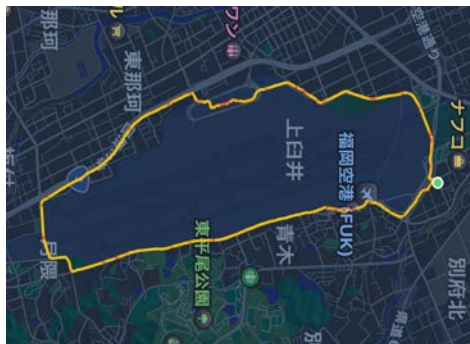
令和7年10月19日 ひとりごみ拾い in 天理駅

奈良「掃除に学ぶ会」に参加し、天理駅近隣に宿泊させていただきました。今朝は、同じく東横インに宿泊されていた道友のO/Yさんが「ご一緒します」とお声かけくださり、心強く思いながら合流いたしました。

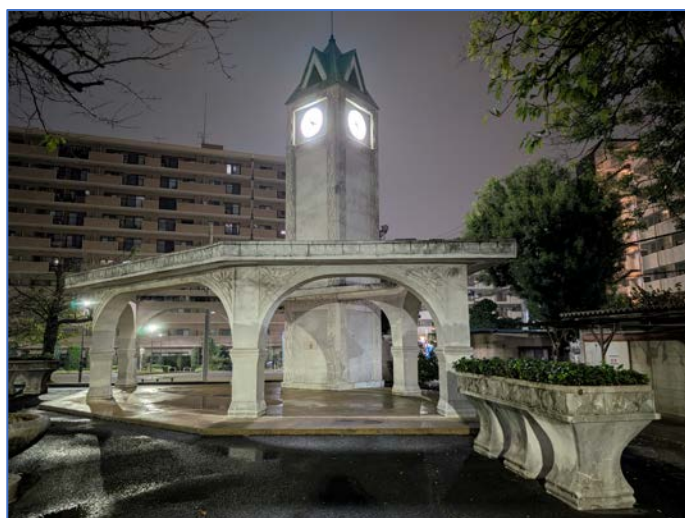
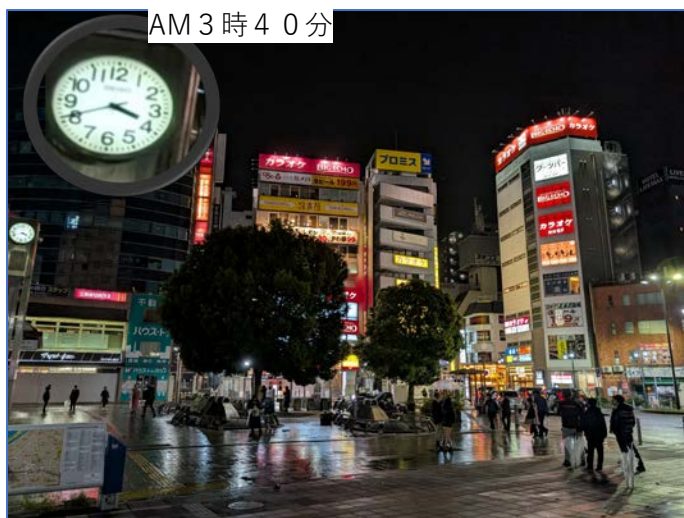
小雨の降る中、午前3時33分にスタート。前夜に下見をしていたおかげで、迷うことなくゴミ拾いに取りかかことができました。O/Yさんはさすがベテランの方で、ゴミを見つけるのも早く、手際の良さには思わず見とれてしまうほどでした。その姿勢から多くを学ばせていただきました。

暗闇の中、いつもの四名にO/Yさんを加えた五名で、約一時間にわたり天理駅周辺約5キロを清掃させていただきました。宗教の街として知られる天理の町は、さすがにゴミが少なく、清らかで美しい印象を受けました。短い時間ではありましたが、仲間とともに静かな早朝の街を歩き、心を整える貴重な時間となりました。

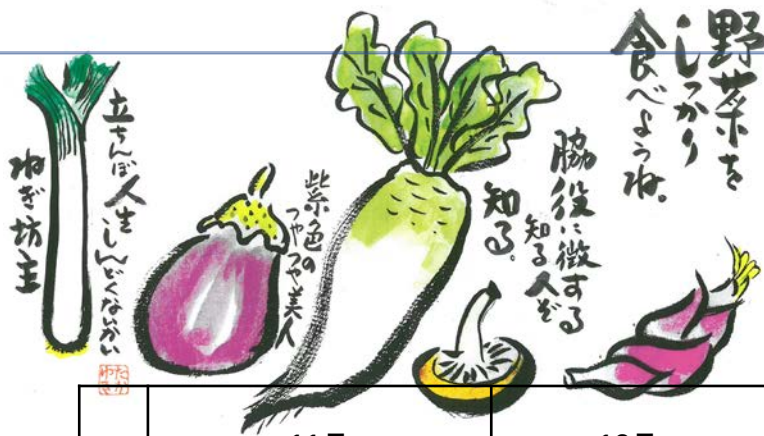
2025.10.26 於：福岡空港ミリオン清掃 第89回



「福岡空港ミリオン清掃」は、東京オリンピックを前に鍵山秀三郎相談役の呼びかけで始まった「羽田街道おもてなし清掃」に倣い、福岡でも同じ志で始めた活動です。福岡空港は1周約9,700メートルあり、清掃には約2時間30分を要します。100回の清掃で延べ100万メートルに達することを目標とし、その思いを込めて「ミリオン清掃」と名付けました。おかげさまで今回で第89回を迎えることができました。活動を重ねる中で、以前に比べてゴミはだいぶ減ってきており、とても嬉しく感じております。当初はひとりで始めた早朝のゴミ（夢）拾いでしたが、次第に福岡空港の職員の皆さまや警備員の方々も、それぞれに清掃活動を行ってくださるようになり、年に数回は客室乗務員やパイロットの皆さまにもお手伝いいただけるようになりました。また、過去には県外から道友の皆さまもご参加くださり、心から感謝しております。なお、ミリオン清掃の際は距離も時間も長いため、動画配信が少し遅れることがあります。どうかご了承ください。博多駅に続き、九州の空の玄関である福岡空港にも「お掃除の文化」が少しずつ根付き、広がっていくことを心から願っております。



「ひとりゴミ（夢）拾い」赤羽駅にて 2025年10月25日早朝、出張先の赤羽駅周辺で「ひとりゴミ（夢）拾い」を行いました。前日、埼玉・深谷の農友を訪れ、その沿線上という理由で初めて赤羽に宿泊。到着時は整った街並みに「きれいな街だ」と感じました。しかし翌朝3時過ぎ、小雨の中を歩き出すと印象は一変。客引き風の女性や酔客、外国語が飛び交う混沌とした光景——まるで十数年前の新宿・歌舞伎町を思わせる雰囲気でした。わずか20分で20リットル袋が2ついっぱいになり、途中「兄ちゃん、何してんの？」と声をかけられる場面も。恐怖を感じながらも、静かに拾い続けました。清掃を終えたあと、赤羽公園やアーケード街でも約1時間半ほどゴミを集めました。恐れや戸惑いがあった一方で、拾うほどに心が静まり、多くのことを考えさせられました。その後、7時半から新宿・歌舞伎町の清掃に参加した際、ある方が赤羽の現状について教えてくださいました。——最近の赤羽の混乱は、新宿歌舞伎町や渋谷での規制強化により、闇の活動の場が他の地域へ分散した影響もあるのではないかと。街のきれいさは、その背後にある社会の変化とも深くつながっていることを改めて感じました。思い出したのは、森信三先生が帆足先生に告げられた言葉です。「ゴミはその街の文化の象徴ですからね。」森先生は、掃除を単なる清掃ではなく、「自分の心の曇りを拭う行」として説かれました。そして、イエローハット創業者・鍵山秀三郎先生の教え。先生は「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」と語られました。小さな実践の積み重ねが、大きな変化を生むという真理です。さらに「ひとりの百歩よりも、百人の一步」という言葉も残されています。たった一人の努力よりも、多くの人が一歩ずつ動くこと——その連鎖こそが、社会を根底から変えていく力になるのだと思います。街が荒れていると感じたなら、誰かがその一片を拾うところから始めたい。それこそが、森先生や鍵山先生の教えに通じる**「人としての基本」**なのだと感じます。遠回りのようでも、「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」。そして、その輪が広がれば、「ひとりの百歩よりも、百人の一步」が現実になる。その積み重ねが、やがて街を変え、人の心を変えていく——。これからも、静かに、誠実に、「ひとりゴミ（夢）拾い」を続けていきます。掃除とは、街をきれいにし、自らの心を磨く修行なのです。25.10.25 仁風／羽田空港にて



再生十一月号

令和七年十一月八日発行

(毎月一回八日発行)

創刊

平成二十八年九月二日

発行人

富吉製襦右衛門



根っ子の友は
ありがたき
哉

| | 11月 | | | | | 12月 | | | | 1月 | | | |
|-------|---------------|-----------------------|---------------------|----------------------|--------------|---------------|---------------|----------------------|--------------|---------------|---------------|----------------------|--------------|
| 日 | | 8 | 8 ~ 9 | 16 | 16 | 5 | 8 | 21 | 21 | | 8 | 17 | 17 |
| 曜 | | 土 | | 日 | 日 | 金 | 月 | 日 | 日 | | 金 | 日 | 日 |
| 行事活動名 | 長目の浜海岸清掃 第34回 | 博多駅早朝清掃 第384回 32周年 | 第45回 福岡実践人研修会 | 太宰府観世音寺 トイレ掃除 第4回 | 戒壇院早朝作務 第29回 | 長目の浜海岸清掃 第35回 | 博多駅早朝清掃 第385回 | 太宰府観世音寺 トイレ掃除 第5回 | 戒壇院早朝作務 第30回 | 長目の浜海岸清掃 第36回 | 博多駅早朝清掃 第386回 | 太宰府観世音寺 トイレ掃除 第6回 | 戒壇院早朝作務 第31回 |
| 場所 | 鹿児島県薩摩川内市 | 博多駅博多口 | クリオコート博多 | 太宰府市観世音寺内 | 太宰府市戒壇院境内 | 鹿児島県薩摩川内市 | 博多駅博多口 | 太宰府市観世音寺内 | 太宰府市戒壇院境内 | 鹿児島県薩摩川内市 | 博多駅博多口 | 太宰府市観世音寺内 | 太宰府市戒壇院境内 |
| 開始時刻 | 6時30分 | 6時15分 | | 5時30分 | 6時30分 | 6時30分 | 6時15分 | 5時30分 | 6時30分 | 6時30分 | 6時15分 | 5時30分 | 6時30分 |
| 運営団体 | 楽農人 とんぼろ海掃除 | 福岡掃除に学ぶ会 | 福岡実践人研修 福岡掃除に学ぶ会 | 太宰府作務に学ぶ会 | | 楽農人 とんぼろ海掃除 | 福岡掃除に学ぶ会 | 太宰府作務に学ぶ会 | | 楽農人 とんぼろ海掃除 | 福岡掃除に学ぶ会 | | 太宰府作務に学ぶ会 |

上記行事予定表は、富吉の参加予定の行事を掲載させていただいています。
その他、活動しているお掃除実践もごさいますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人) 富吉 製襦右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ掃除に学ぶ会

〈合同事務局〉 ☎811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 《仁風庵》

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。